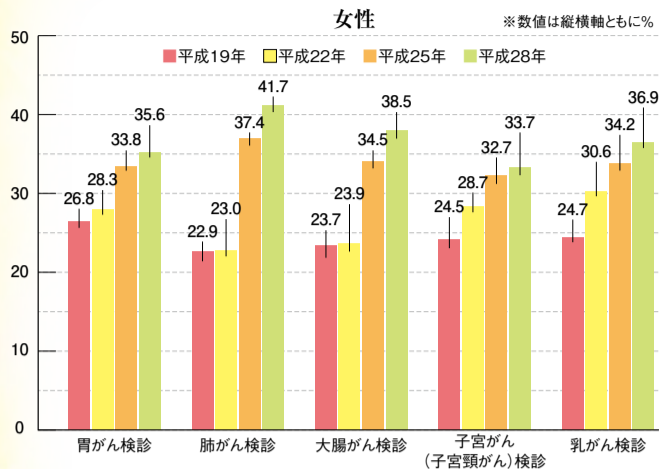


平成28年国民生活基礎調査 がん検診の受診状況

がん検診を受診した40歳から69歳(子宮がん(子宮頸がん)検診は20歳から69歳)の者の割合。



指針で定められているがん検診の種類、受診対象者、受診間隔

胃がん検診(50歳以上※胃部X線検査は40歳以上に対し実施可)は2年に1回(胃部X線検査は毎年実施可)、大腸がん検診(40歳以上)と肺がん検診(40歳以上)は毎年、乳がん検診(40歳以上)と子宮頸がん検診(20歳以上)は2年に1回。

【茨木市】女性におすすめのがん検診

レディース5がん検診(乳がん・子宮がん・胃がん・肺がん・大腸がん)

平日に受診するのが難しく、一度にがん検診を受けたい人に便利な、毎月1回日曜日に実施される検診。次回予約受付期間は8月3日(木)～23日(水)、実施日9月10日(日)

- 費用** 2,400円、喀痰受診者は2,600円 ※無料対象者あり
- 場所** 茨木市保健医療センター
- 対象** 平成29年4月1日時点で40歳以上で、5種類のがん検診を全て受診可能な女性。
- 申込** 電話(072-625-6685)または茨木市保健医療センター1F窓口にて予約受付(平日8時45分～17時15分)

その他のがん検診や詳細情報は茨木市webサイトをチェック▶



がん検診の現状
厚生労働省の統計によると、2015年の死因順位別死亡数の第二位は悪性新生物(いわゆる、がんや悪性腫瘍のこと)で370346人と、全体の28.7%を占めています。国民の2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなっています。がん検診を受けることで早期発見・早期治療ができ、がんによる死亡を今よりも減らすことができます。厚生労働省では、がん検診の受診率を50%以上とすることを目標に、がん検診を推進しており、各自治療で受診率を上げるために様々な取り組みが行われています。しかし、受診率をみると上昇傾向にありますが、目標とはほど遠い状況です。「忙しいから」「またいつか」と後回しにせず、「早め」の行動が肝心です。今こそ自分のカラダと向き合って、検診を受けましょう。

【高槻市】女性におすすめのがん検診

子宮頸がん・乳がん・大腸がん検診

女性にとって重要な3つのがん検診がセットで受けられる便利な検診。保育付き検診もあり(0歳～就学前/20名まで)

次回予約開始日は8月3日(木)8時45分～、実施日9月12日(火)

- 費用** 無料 **場所** 高槻市保健センター
- 対象** 子宮頸がん:20歳以上の女性市民、乳がん:30歳以上の女性市民、大腸がん:40歳以上の市民
- 申込** ※子宮頸がんと乳がんは平成28年4月1日以降未受診の方 高槻市簡易電子申込システム、電話(健康づくり推進課:072-674-8800)、窓口(健康づくり推進課)のいずれかにて(保育希望者は電話か窓口にて)

詳細情報は高槻市webサイトをチェック▶



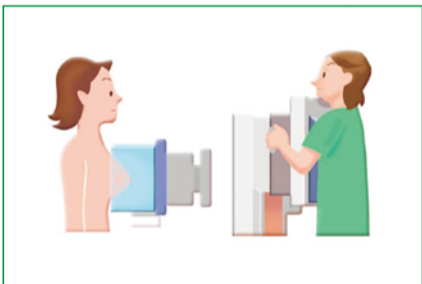
女性のカラダ特集

自分のカラダと今こそ向き合おう
検診のスズメ

「健診」は、健康かどうか・病気の危険因子があるかどうかを確かめること。「検診」は、ある特定の病気にかかっているかどうかを調べるために診察・検査を行うことです。検診は、特定の病気を早期に見つけて早期に治療する事を目的としており、「がん検診」が検診の代表例となっています。今回、がん検診にスポットをあてて紹介します。

出典データ:厚生労働省

検査方法



- マンモグラフィ(乳房X線撮影)
しこりや石灰化などの確認をします。



- 超音波検査(エコー検査)
しこりの形や性状などで良性か悪性を判断していきます。

小さながんも鮮明な画像で発見
現在は機器の進歩により、触診では分からないほど早期の段階で乳がんを発見できるようになりました。検診の検査方法には、マンモグラフィとエコー(超音波検査)が一般的です。特に乳腺内に脂肪が少ないタイプの「高濃度乳腺」の方では、小さいしこりはマンモグラフィで見つけにくく、逆に、しこりを作らず石灰化のみで見つかるがんはエコーだけでは発見が難しいため、どちらか一方ではなく2つを併用することがベストです。

最小限の不安で もっと身近に検査を
当院ではマンモグラフィとエコーに高精度の画像解析ができる機器を導入しました。特にマンモグラフィでは痛みがずっと抑えられるようになり、「この検査は痛くなかった」というお声をよくいただきました。経験が豊富な女性技師が声をかけながらゆっくりと検査を進め、画像は技師と複数の医師によるチェック体制で見落としを防ぎます。最良の設備やチームワークで、もっと気軽に検査を受けていただけます。

90%以上は治る乳がん 進歩した検査で、早期発見を
乳がんが見つかったとしても、薬物療法や手術など、適切な治療を行うことで、完治できる場合も多いです。小さいがんであれば手術痕も目立ちませんし、今は再建術の技術も進んでいます。

12人に1人が罹患し、40～50代で最も多い乳がん。最近では意識の高まりから検診を受ける人が増えています。検診の技術も進歩し、「痛い」「怖い」というイメージも和らぎつつあります。そのメリットや受診のポイントについてお話をうかがいました。

乳がんのスペシャリスト



第一東和会病院 乳腺科部長 田中 優子先生 (たなか ゆうこ)

神戸大学乳癌外科の特命准教授を経て、昨年11月より第一東和会病院乳腺科部長として勤務。神戸女子大学非常勤講師を兼務。医学博士、乳癌学会指導医、検診マンモグラフィ読影医、臨床遺伝専門医。



医療法人東和会 第一東和会病院

高槻市宮野町2-17 ※乳腺科の診察日・予約は電話でお問い合わせください。電話受付予約:平日13時～17時

072-671-1008 (病院代表)

大腸がんのスペシャリスト



谷川記念病院 尾方 章人 副院長 (おがた あきひと) 大阪市立総合医療センター、大阪医科大学付属病院で消化器外科に従事。平成23年より谷川記念病院勤務。

大腸がんは早期発見で治療率が高い 定期的な検査が何よりも大切
高年齢に伴い、罹患率が高くなっている大腸がんは、女性男性ともがん死因の上位に上がります。特徴や検査方法について、消化器外科の尾方先生にお話を伺いました。

医療法人 篤静会 谷川記念病院

茨木市春日1-16-59 Pあり JR「茨木」駅より徒歩5分 診療時間 午前9時～12時 午後17時から20時

072-622-3833 ※診療科目によって異なります。詳しくは電話またはHPをご覧ください。



進行している大腸がんの主な症状

- 便に血が混ざる おなかにしこりがある
- 便が細くなる 残便感がある
- 便秘や下痢が続く 腹痛がある

※上記に当てはまらなくても、体のサインを見逃さず、専門医へ相談することをお勧めします。初期では自覚症状がほとんどありません。

がんのステージと5年生存率

進行度	状態	5年生存率
ステージ0	がん細胞が粘膜にとどまっている状態。	約99%
ステージI	腫瘍が少し広がっている。リンパ節に転移はしていない。	約99%
ステージII	リンパ節に転移はしていない。筋肉の層を超えている。	約90%
ステージIII	腫瘍が筋肉の層を超えて深く広がり、リンパ節転移もみられる。	約70%
ステージIV	がんが臓器の壁を超えて、まわりの主要な血管などに広がっている。または、離れた他の臓器へ転移している。	約20%

女性のがん死因第1位
大腸がんが、近年増加している原因のひとつとして、生活習慣や食事の西洋化にあると言われています。特に初期の大腸がんは自覚症状がほとんどありません。血便や、腹痛、体重減少などの異常症状が伴う頃にはステージが進行しているケースが多いので、手遅れになる前の「早期発見」が重要です。

大腸がんは5年生存率が高い
5年生存率とは、がんの治療を始めた人の中で5年後に生存している人の割合を示すものです。大腸がんは5年生存率が高いのが特徴です。早期発見で治療すれば、5年生存率は約90%以上と高いです。また、大腸がんは比較的早期発見しやすいのが特徴です。定期的な検査を受けることで、早期発見し、治療を受けることで、5年生存率を高めることができます。

より早い段階で確実に発見するには内視鏡検査が優れています。大腸がんや大腸ポリープ、腸炎などの診断ができると共に、検査中に腫瘍性のもや早期のがんが発見された場合はその場で切除することが可能で、検査による体の負担を軽減できます。「痛いのでは」と不安になる方が多いですが、鎮痛剤を使うことで緩和できます。谷川記念病院では毎日、土日でも胃カメラと大腸カメラの検査が可能です。2年に1回でもいいので、ご自分の健康のために一度大腸内視鏡検査を受けてみてください。